

1-2-9 県指定・赤田臥牛墓

〈県指定〉昭和 31 年 2 月 24 日

〈所有者〉赤田家

〈所在地〉愛宕町 3174 番地

大雄寺裏墓地

〈時代〉江戸時代（19 世紀）

〈員数〉16.5 m²

墓（1カ所）環石径 9 cm、盛り土径 91 cm、高さ 30 cm

東山大雄寺墓地に赤田家の墳墓がある。東西 3.6m、南北 5.5mの墓域内に石塔 3、小墳 4 が配置されているが、臥牛墳は入口に最も近く、中央に位置し、右に先霊、左に誠軒（嫡孫）、後ろに章斎（嫡子）の墳墓がある。各墳とも同大で、環石を設け、中に盛り土がしてある。誠軒の遺骸は大正 15 年小糸坂からここに移された。章斎墳の右横に修墓の際建てられた標碑がある。

臥牛は名元義、通称を新助と呼んだ。臥牛はその号である。幼少より学問に志し、長じて江村北海の門に入り、最も物徂徠^{ぶつそらい}の学風を好んだ。代々一之町に住み醸酒を業としたが、文化 2 年（1805）官許を得て邸内に家塾静修館を開き、初めて積奠^{せきてん}を行なった。文政 5 年（1822）7 月 22 日没、享年 78、法名浄彰。

「臥牛集初編」10 巻は、文政 10 年津野廷賢により刊行された。

参考文献

『高山の文化財』177～178 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年 3 月 31 日